

特別受講生の募集

県立新潟女子短期大学会員登録

県立新潟女子短期大学では、生涯学習意欲の高まりにこたえ、特別受講制度を実施しています。

平成9年度特別受講生を募集します。

受講資格 満18歳以上で、半年または1年以上継続して学習する意欲のある健康な方。

告知板

皆さんの情報も掲載しますので、ご希望のかたは連絡してください。締め切りは発行日の20日前です。

□日時 □会場 □内容 □対象 □申し込み □問い合わせ

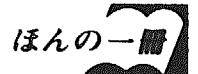
環境問題の名著『沈黙の春』で知られる著者の遺作となったエッセイ。「センス・オブ・ワンダー」とは自然界の美しさや神秘さ、不思議さに目を見はる感性である。驚きと感激にみちあふれたことの時期に、共に驚き感動をわかちあう大人の存在が、センス・オブ・ワンダーを育み、「大人になるとやってくる倦怠と幻滅…(中略)…などに対するかわらぬ解毒剤になる」と説いている。

内容をかいつまんてしまうと、とても固いとつづきにくい本のような印象を与えるが、薄くて読みやすく、命に対する著者の思いがストレートに伝わってくる。著者が子供と一緒に自然を散策する様子が美しい言葉でつづられる。海の荒々しさ、りんとした森のしづけさ、ちっぽけな生き物でしかない人間。この本の中には忘れていた情景がある。忙しさの中で自分を見失いそうな時、心を癒してくれる、そんな本のひとつに加えたい。

アメリカの海洋生物学者である著者の説く「科学者の目」は、科学という言葉から連想する科学技術や知識という側面よりも、自然に対する敬虔な畏怖の念や神秘的なものに対する驚きの感覚を大切にしている。『わたしたは、子どもにとって、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとって、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要でないと固く信じています』とあるように、知識を詰め込むのではなく、感じる心を育むことを強調している。

原著は1956年に出版され、1991年に佑学社から邦訳されたが、その後絶版となり、手に入らない状態が続いているが、今回新潮社から出版され、多くの人の手に渡ることを喜びたい。実物は薄い小振りな本で読み終えるのに一時間もかかる。所々に挿入されている写真は妙高高原在住元敬和学園に勤務していた森本二太郎によるもので、馴染みのある風景が親しみを感じる。死と向き合いながら著者が次代に伝えようとしたものを、直率に受け止めなければならない、との思いが強く残った。

(中山佳奈恵)



『センス・オブ・ワンダー』

レイチャル・カーソン著

上遠恵子 訳

新潮社 1996

新潟県司法書士会では、2月を「相続登記はお済みですか月間」として無料相談を実施しています。

親がなくなり、土地や客室などを相続しても登記はついていません。

相続登記はいつまでにしなければならないとの定めはありませんが、

相続人が続けて死亡したりして相続関係者が増えたり、また書類の取り揃えやその他で複雑になりがちです。

2月1日から28日までの1

新潟県司法書士会では、2月を「相続登記はお済みですか月間」として無料相談を実施しています。

親がなくなり、土地や客室などを相続しても登記はついていません。

相続登記はいつまでにしなければならないとの定めはありませんが、

相続人が続けて死亡したりして相続関係者が増えたり、また書類の取り揃えやその他で複雑になりが